

果樹カメムシ類とは

果樹に被害を及ぼすカメムシ類の総称。いずれの種も針状の口を果実に刺し込んで吸汁加害する。

1. 種類

果樹カメムシ類は、全国で三十数種いるが、発生が多い種は、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ。

2. 主な寄主植物

果樹では、カンキツ、カキ、ナシ、モモ、ウメ、リンゴなど。

3. 生態

スギ・ヒノキなどの針葉樹林で球果内の種子を餌として繁殖し、餌が枯渇すると針葉樹林を離脱し、果樹園に飛来して被害を起こす。発生量は主要な餌であるヒノキ・スギ球果の量に左右され、年次変動が非常に大きい。

4. 被害状況

果樹カメムシ類の加害を受けた果実は、吸汁された部分がスポンジ化してくぼみが生じ、商品価値を大きく損なう。また、幼果期に加害を受けると落果する。

5. 防除方法

飛来を確認した場合速やかに薬剤散布を実施する。また、多目的防災網等の設置によるほ場への侵入防止、袋掛けによる加害防止を実施する。



チャバネアオカメムシ



ツヤアオカメムシ



クサギカメムシ



果実への加害状況



果実被害 (ナシ)



早期落果被害 (カンキツ)